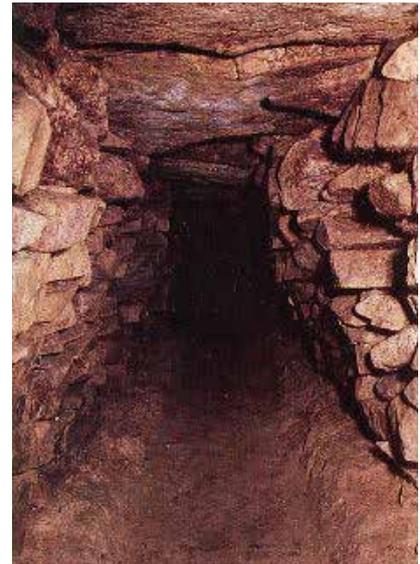




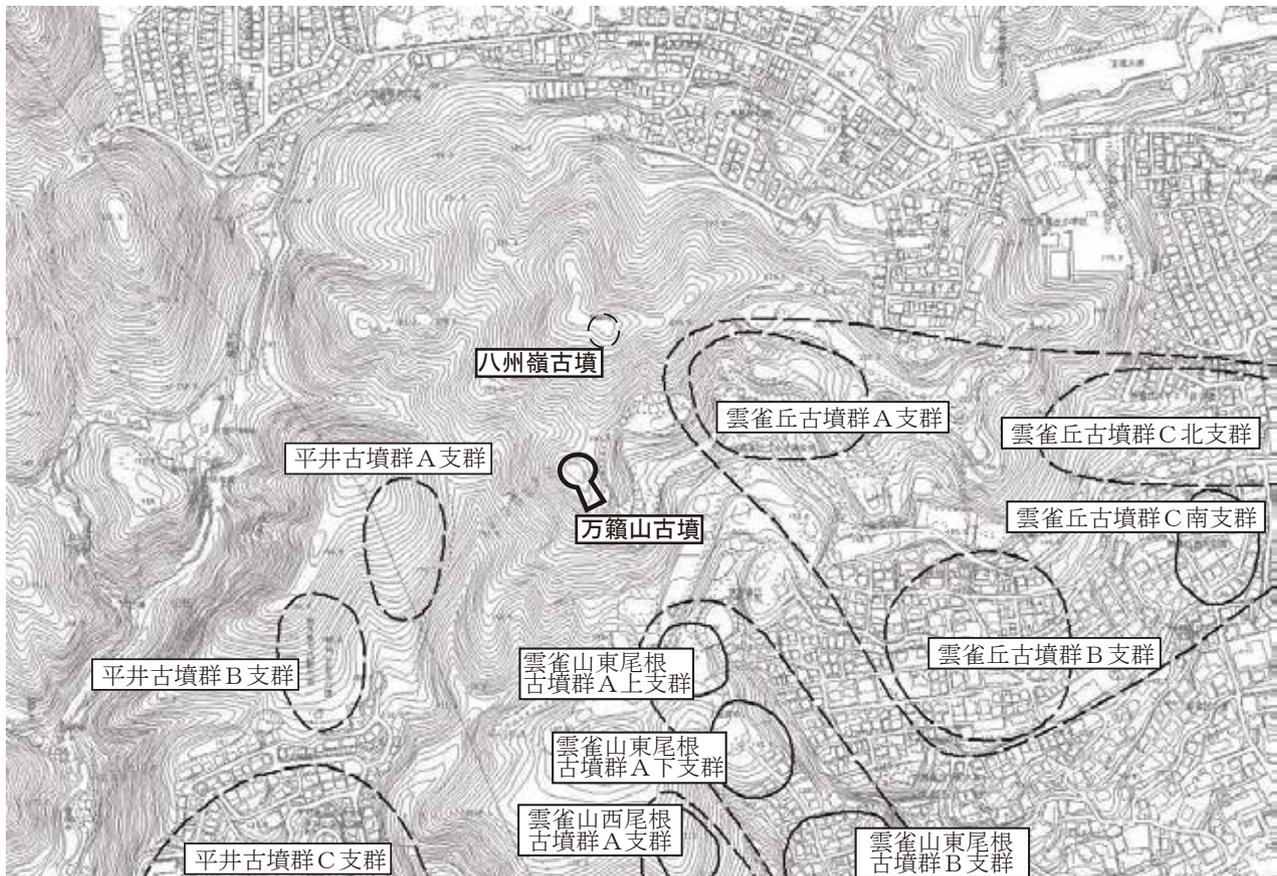
1. 2016年度調査の概要

大阪大学考古学研究室では、科学研究費補助金「日本古墳研究リソースを活かした墳丘墓築造と社会関係の国際研究展開」（基盤研究(A)、研究代表者：福永伸哉）の一環として、猪名川流域における古墳時代史の解明に取り組むため、宝塚市教育委員会の協力を得て万籟山(ばんらいさん)古墳の発掘調査を実施した。

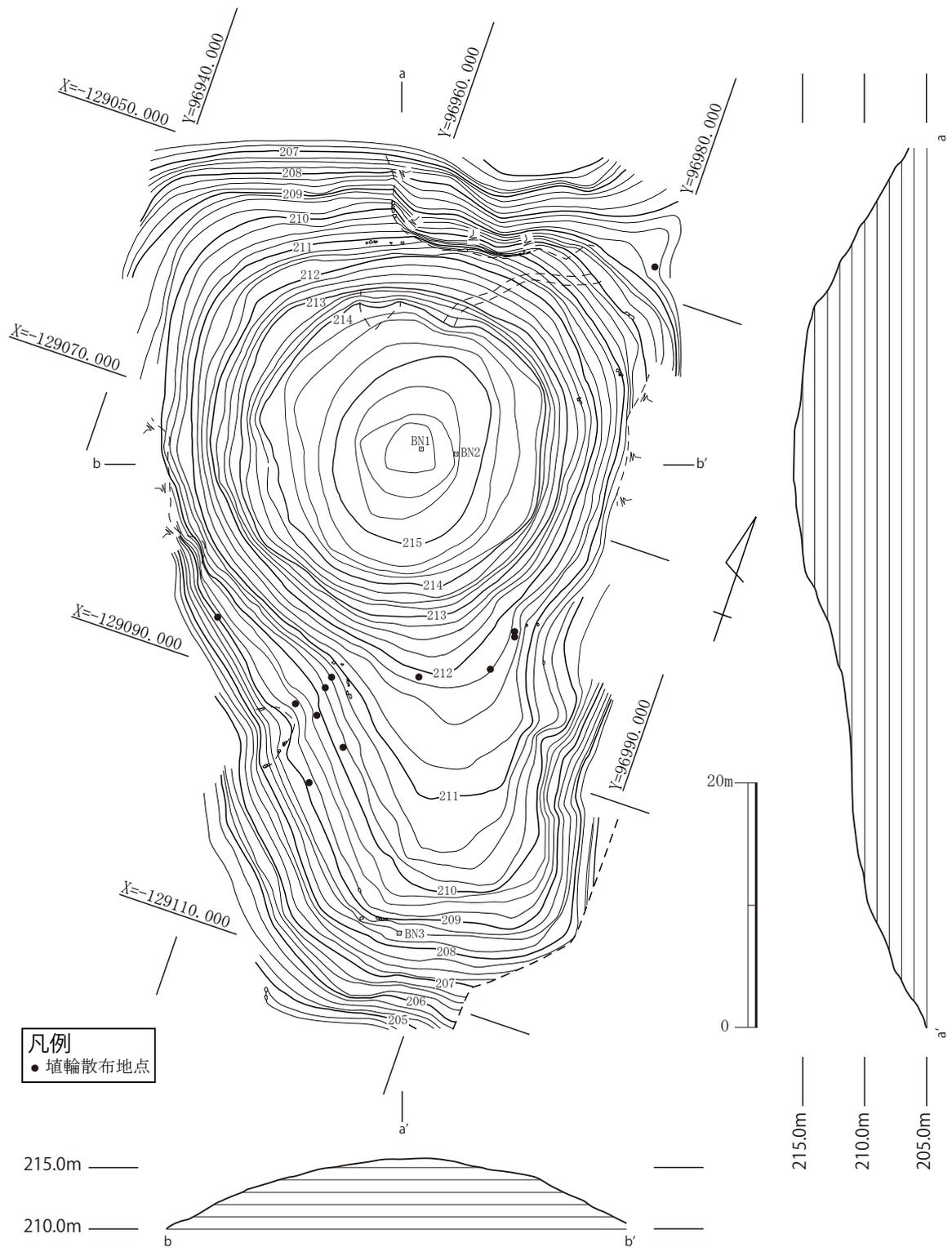
調査遺跡 万籟山古墳
所在地 兵庫県宝塚市切畑字長尾山
調査目的 万籟山古墳の墳丘規模・築造時期の解明
調査方法 発掘調査
調査期間 2017年2月27日(月)～3月23日(木)
調査主体 大阪大学大学院文学研究科考古学研究室
(調査担当 教授：福永伸哉、高橋照彦、助教：中久保辰夫)
調査協力 宝塚市教育委員会



万籟山古墳の石室 (直宮 1975)



万籟山古墳と周辺古墳の位置



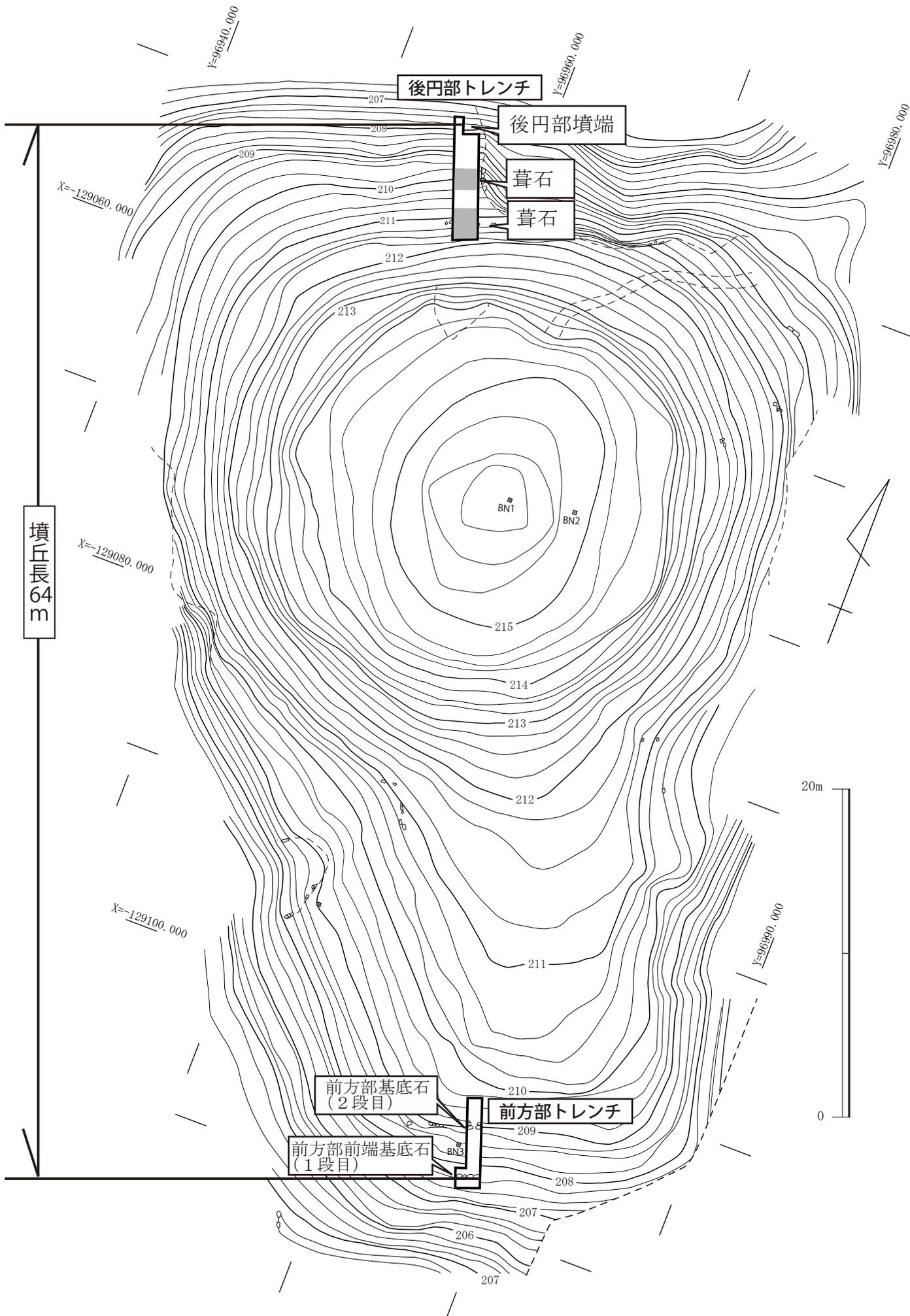
万籟山古墳墳丘測量図 (S=1/500)



万籟山古墳 (前方部より)



万籟山古墳 (後円部より)



万籟山古墳発掘調査区配置図 (S=1/300)

2. 大阪大学による発掘調査の成果

① 著名前期古墳の初となる発掘調査 万籟山古墳は、昭和初期に付近にハイキングコースをつくる際、竪穴式石室の天井石が露出して遺物が取り出されたため、1935年(昭和10年)に日本古文化研究所によって石室内部が精査された(日本古文化研究所1937)。その後、1970年に万籟山古墳が宝塚市指定史跡に指定されたことを契機として、宝塚市教育委員会・関西学院大学による石室実測、武庫川女子大学による墳丘測量等は行われたが、良好な状況で残存した埋葬施設を中心とした調査であり、万籟山古墳の墳丘に関する情報は、地形の観察や測量調査によって推測するほかなかった。大阪大学考古学研究室は、2016年春に高精度の測量図を作成し、今回、墳丘規模を確定するために、初となる発掘調査を実施した。

② 墳丘規模の解明 古墳の規模にかんする情報は、被葬者の実力を測るために考古学研究上、欠くことのできない情報である。これまで万籟山古墳の墳丘長は、地形の観察や測量調査によって54mとの推定が有力だったが、今回の発掘調査によって64mと判明。その根拠は、①前方部トレンチで2段の葺石を検出し、1段目基底石から前方部前端が確定したこと、②後円部トレンチ北端で傾斜平坦面を確認したことである。さらに墳丘高は8.7mであることも明らかとなった。同時期の猪名川流域の最有力古墳に相当する規模となる。また、後円部トレンチでは葺石が良好に残存しており、詳細をさらに検討する必要があるものの、2段以上の段築があることも明確となった。

万籟山古墳調査歴一覧

調査歴(年)	調査主体	調査方法	調査成果
1935	日本古文化研究所	現地踏査	埋葬施設構造、副葬品の確認。
1973	宝塚市教育委員会・関西学院大学	石室実測	竪穴式石室の再実測。
1975	武庫川女子大学	測量図作成	万籟山古墳の墳丘長を54mと推定。
2016	大阪大学考古学研究室	測量調査	高精度の墳丘測量図作成。
2017	大阪大学考古学研究室	発掘調査	発掘調査により墳丘長の確定 葺石の検出。埴輪による築造時期の推定。

参考文献

梅原末治1937「攝津萬籟山古墳」『近畿地方古墳墓の調査』二 日本古文化研究所
直宮憲一1975『摂津万籟山古墳』宝塚市教育委員会



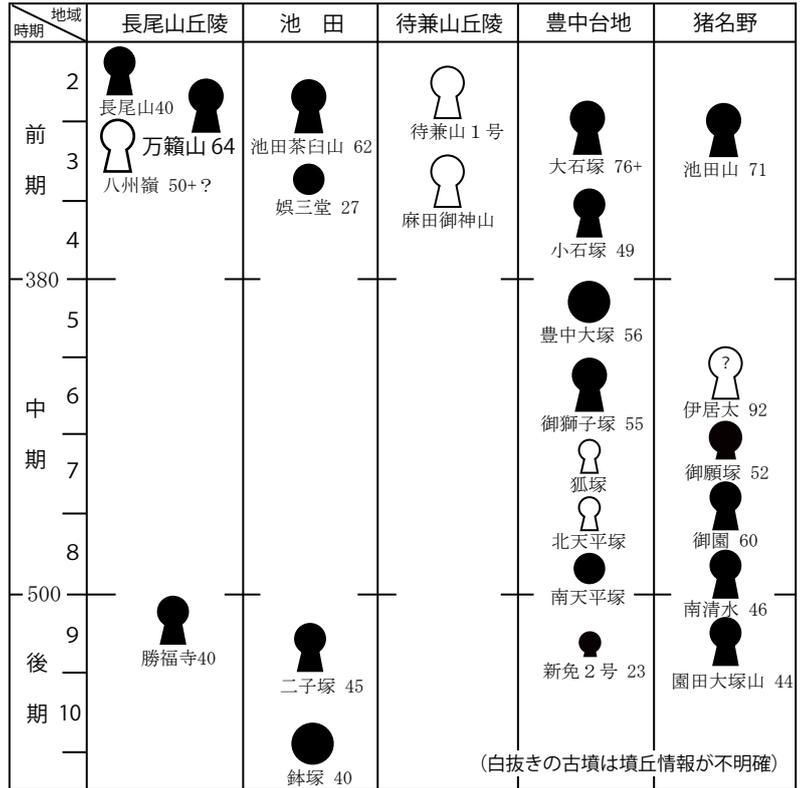
前方部から後円部をのぞむ。手前は2段目葺石

③ 万籟山古墳の築造背景 今回の発掘調査成果によって、猪名川流域の古墳築造動態に関する詳細な情報を得ることができた（右図）。

出土埴輪の特徴から万籟山古墳は古墳時代前期中頃（4世紀前半）の築造と推定できる。古墳前期の長尾山丘陵には、葺石を有し、埴輪を樹立する典型的な前方後円墳が少なくとも2基（長尾山古墳、万籟山古墳）築造されており、初期ヤマト政権と長尾山付近の勢力との強い連携がうかがえる。背景として、ヤマト政権成立期の猪名川を介した南北交易ルートの重要性が浮上。

注意点

今回は、山中で足場が悪いため、一般向けの現地説明会は行わず、一般の方の調査区への立ち入りはご遠慮いただいています。今年冬に、市教委と共同で成果報告会などを開催する予定です。



猪名川流域における古墳の変遷（古墳名+墳丘長（m））

発掘調査の様子は、インターネットで公開しています。
<http://kofun-ina-r.extrem.ne.jp/>



万籟山古墳表面採集埴輪